

活動報告：ぶんぶんひろば

1 活動のねらい

ぶんぶんひろばの活動は平成22年のセンター開設以来、まる6年が経過した。このひろばの活動の3つのねらいの1つ目は、就学前の子どもとその家族への子育て支援の場の提供である。ねらいの2つ目は、本学で学ぶ学生の教育の場としての活用である。本学は「対人援助のプロを育てる」というコンセプトのもと、教育を行っている。このセンターが位置する広島 長束キャンパスには、大学の学芸学部（2学科）と短期大学の3学科があり、学生の多くは地域貢献、教育・保育・対人援助職を目指している。週2回ではあるが、子育て中の家族の姿を、キャンパス内で目の当りにすることは、学生たちにとってこの上なく良い体験となっている。それぞれの学科の目標を達成するためにこのセンターの存在が役立っているといえる。ねらいの3つ目は研究である。なかでも、子育て支援に関する研究は昨今の社会的な状況から急がれるものである。各学科から選出された教員はそれぞれの研究課題を持ちより、ひろばの研究が推進されるよう期待されている。

2 活動の内容

(1) 地域貢献としての活動

27年度の実施回数は69回であった。参加の状況を表1に示す。平均参加組数は17.0組であった。

(2) 教育における活用

週2回のひろばの他、授業での使用は次のようであった。前期には演奏活動で6回（音楽学科）、造形表現で2回（子ども学科）、後期には、演奏活動で3回（音楽学科）、日本語表現で2回（短大：コミュニティ生活学科）、栄養指導各論実習で2回（短大：食物栄養学科）、幼児英語指導法で1回（短大：保育学科）の利用があった。また、総合子ども学Ⅱ（子ども学科）では、子育て支援の場所として、子育て支援のための遊具や設備面の配慮を学び、「初めて体験した」「有意義だった」との感想が得られた。

「保育技術サークル」はこれまでの短大保育学科のメンバーに加え、子ども学科と食物栄養学科からの入部があり、手遊びと絵本の読み聞かせ活動が継続的に行われた。

27年度はひろば開催中に幼児の嘔吐等があり、感染症への対策を含む危機管理に対して、改めて厳しい対応力が求められた。そこで、危機管理マニュアルを検討し、スタッフに簡単な研修を行った。今後もさらに研修を重ねていく予定である。

（文責：短期大学 保育学科 田頭 伸子）

コラム：スタッフ紹介

ぶんぶんひろばのスタッフをご紹介します。

3人の保育士が登録しており、ひろばの開催時には2人ずつ常駐しています。スタッフからのメッセージです。「6年目を迎えるぶんぶんひろばは利用者も増加し地域に密着した支援センターになっています。サークルの学生による絵本の読み聞かせ（毎週火曜日）、音楽学科学生の演奏会、食物栄養学科の食育、造形遊び他、皆さん楽しみに多くの方が参加しています。最近ではお父さん、おばあちゃんの姿もみられるようになり、夫婦・家族と一緒に子育てを楽しまれているのを感じます。一人で来られた方は情報交換されたり、また、育児の悩みを相談される方もあります。今後、専門的な相談にもつなげられるようにと考えています。」



西村幸子さん 楠原ゆかりさん
谷本佳子さん

表1 平成27年度実施回数と利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
実施回数	6	8	9	7	2	2	9	7	6	7	6	69
利用組数	70	121	174	223	40	38	170	90	82	85	83	1176
平均利用組数	11.7	15.1	19.3	31.9	20.0	19.0	18.9	12.9	13.7	12.1	13.8	17.0
利用者数	子ども	78	130	189	254	52	41	192	105	95	95	1328
	大人	70	122	175	226	41	38	171	90	86	85	1189
	合計（人）	148	252	364	480	93	79	363	195	181	180	2517